Panasonic®

AV コントロールアンプ
取扱説明書

品番　**SU-HE9**

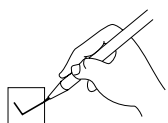
上手に使って上手に節電

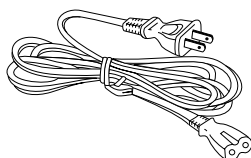
保証書別添付

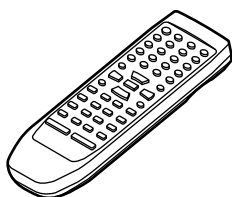
このたびは、AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

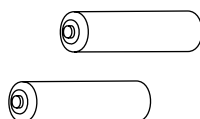
- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

RQT5925-S

付属品の確認

接続の前に、まず付属品を確かめてください。

- □ 電源コード……………………………………1 本

（RJA0050-K）

- □ リモコン　……………………………………1 コ

（EUR7702120）

- □ リモコン用乾電池 ……………………………2 コ

お願い

付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
かっこ（　）内は買い替え時の品番です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

この製品は米国 DTS 社からの実施権に基づき製造されています。合衆国特許 No.5,451,942, 5,956,674, 5,974,380, 5,978,762。海外特許申請中。
「DTS」および「DTS デジタルサラウンド」は DTS 社の登録商標です。
著作権1996年、2000 年 DTS 社。不許複製。

もくじ

確認
準備
楽しむ
その他
リモコン
必要なとき

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）**

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

電源コードについて

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

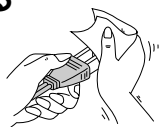
［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］

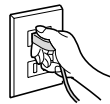
- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

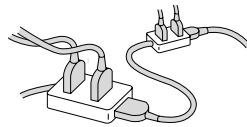
ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

- 感電の原因になります。

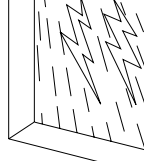
電源プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。
  電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない

- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

雷について

雷が鳴ったら、機器や電源プラグに触れない

接触禁止

- 感電の恐れがあります。

使用方法

機器内部に金属物を入れたり、水をかけたり濡らしたりしない。

- ショートや発熱により、火災や感電の原因になります。
- 機器の上に液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造しない

分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起こったら

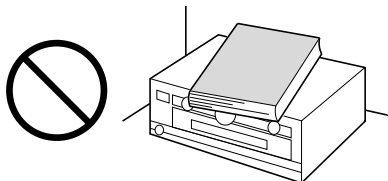
異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- **機器内部に金属や水、異物が入ったとき**
- **煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき**
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

⚠ 注意

設置・接続について

放熱を妨げない

- 内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

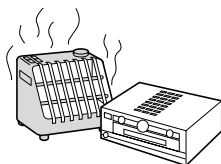
不安定な場所に設置しない

- **上に大きなもの、重いものを載せない**

- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない

- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

使用方法

コードを接続した状態で移動しない

- 接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

乾電池

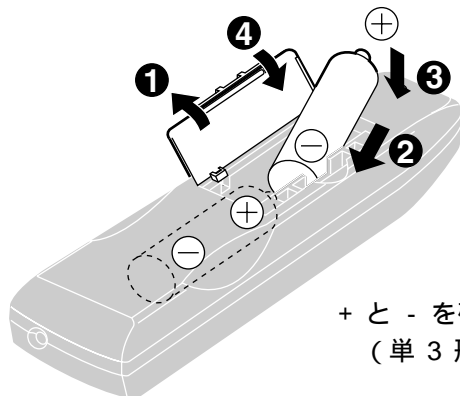
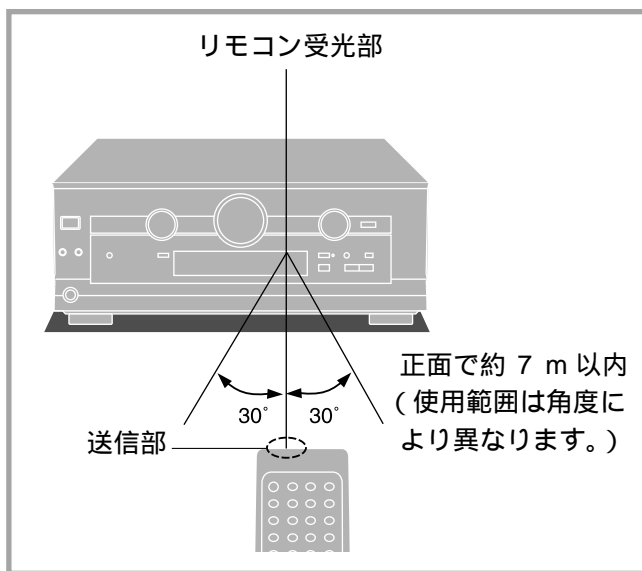
電池は正しく取り扱う

- **⊕と⊖は正しく入れる**
- **長期間使用しないときは、取り出しておく**

電池は誤った使い方をしない

- **新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない**
- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水、火の中へ入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**
- **乾電池の代用として充電式電池を使わない**
- **被覆のはがれた電池は使用しない**
- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

リモコンを使う前に

乾電池の入れかた

リモコンの使いかた

使用上のお願い

- 受光部とリモコンの間に障害物は置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部とリモコンの先端のほこりに注意。

故障防止のために

- 分解、改造をしない。
- 重いものを載せない。
- 直射日光の当たるところに放置しない。
- ジュースなど液状のものをこぼさない。

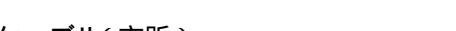
本体をラックに入れて使用するとき

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

各機器の接続

お願い

- 接続するときには、各機器の電源を切ってください。
- 接続する機器の説明書もご参照ください。
- デジタル端子のみで接続している機器からの録音はできません。アナログ端子にも接続して、アナログ入力を選んでください。（➡ 20、24 ページ）
- 本機の上には物を載せないでください。

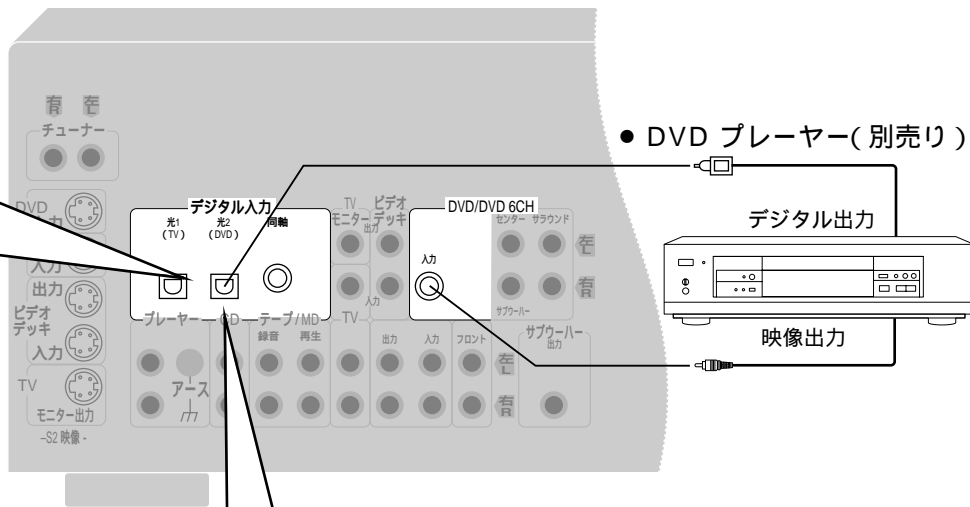
■本機と各機器を接続するには下記のコード・ケーブル類が必要です。

別売り品の品番は、2001 年 5 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

映像機器を接続する

DVD プレーヤーをデジタル接続する

オプティカルデジタルケーブルを接続する時は

防塵キャップ

- 防塵キャップを外し、端子とプラグの形状を合わせて差し込んでください。
- ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。
- デジタル入力端子を使用しないときは防塵キャップをつけておいてください。

デジタル入力端子の設定は変更できます（➡ 14 ページ）
同軸出力のみの DVD プレーヤーでも同軸端子に接続して、使用できます。

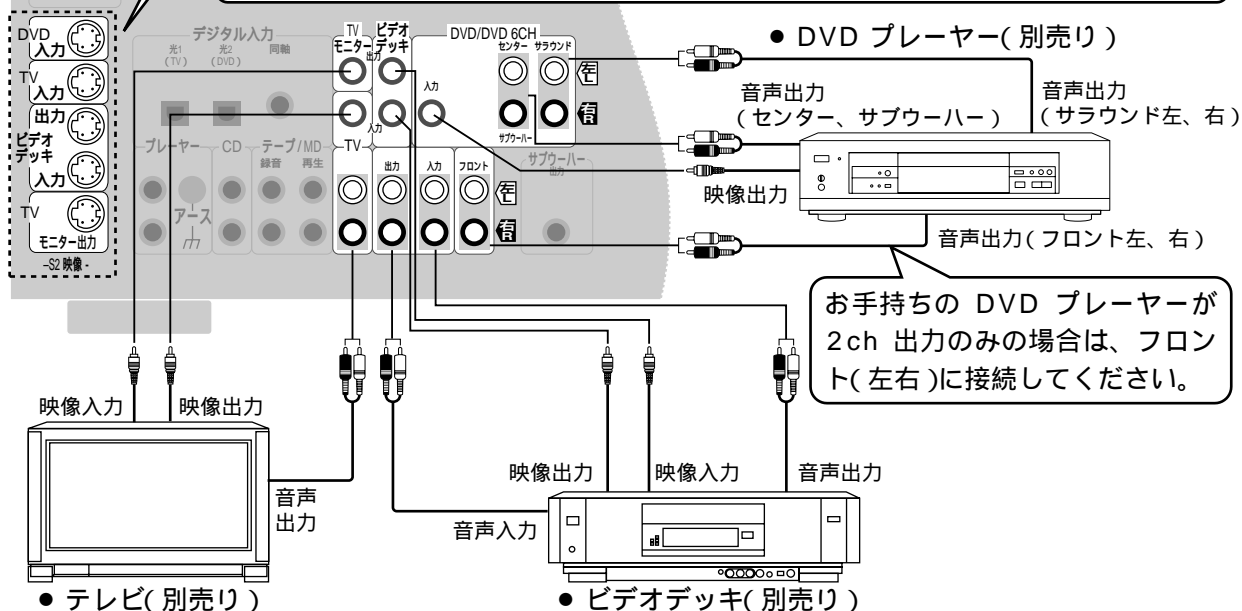
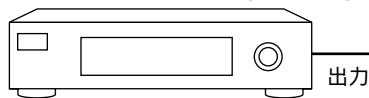
お知らせ

デジタル端子のみで接続している DVD プレーヤーからの録音はできません。アナログ端子にも接続して、アナログ入力を選んでください。（下記、20、24 ページ）

DVD プレーヤー、ビデオデッキやテレビを接続する

S 映像端子について　S ビデオコード（別売り）で接続してください。
S 映像端子に接続すると映像端子に比べて、高画質な映像をお楽しみいただけます。DVD やビデオデッキからの信号をテレビに出力できます。テレビからの信号をビデオに出力できます。

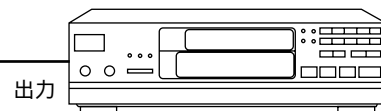
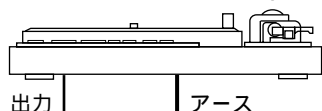
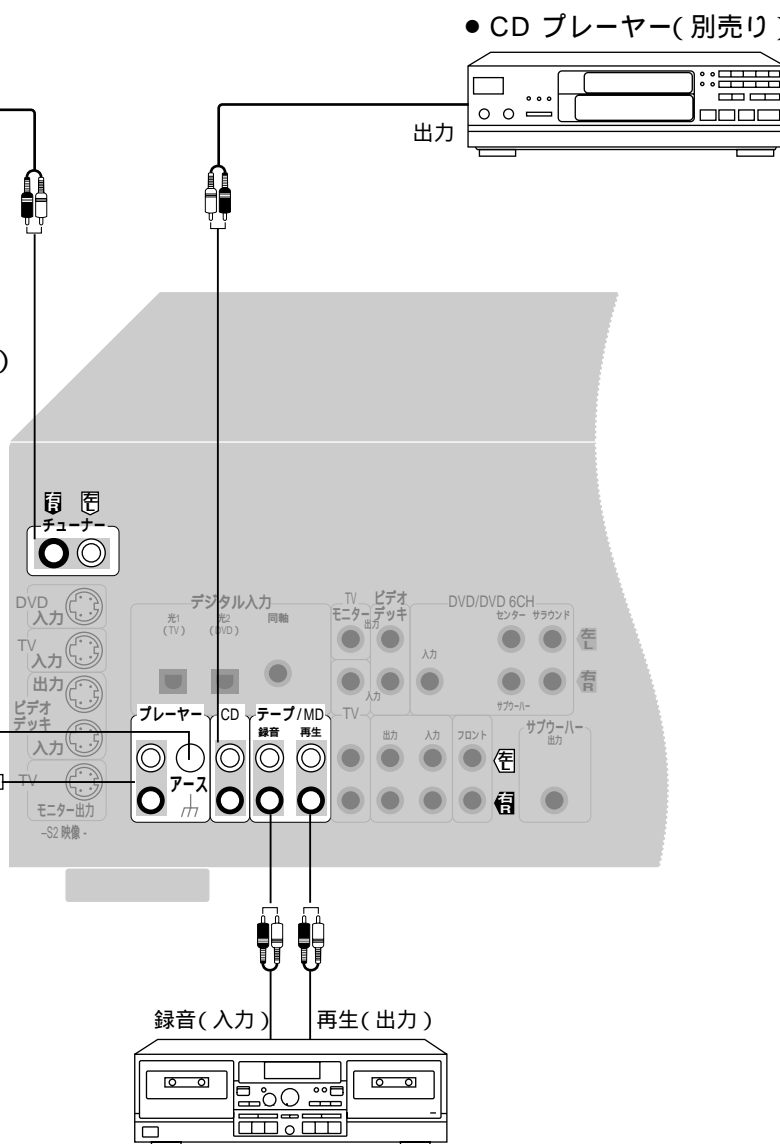
お知らせ

- S 映像入力以外の映像入力から入ってきた信号は S 映像出力から出力されません。
- 本機は S2 映像に対応しています。
- テレビには、映像/S 映像の切り換えの設定が必要なものや、S 映像コードを接続した場合、S 映像入出力が優先されるものがあります。くわしくはテレビの説明書をご覧ください。

● DVD プレーヤー（別売り）
音声出力（センター、サブウーハー）
音声出力（サラウンド左、右）
映像出力
音声出力（フロント左、右）

お手持ちの DVD プレーヤーが 2ch 出力のみの場合は、フロント（左右）に接続してください。

映像入力　映像出力
音声出力
映像出力　映像入力　音声出力
音声入力

● テレビ（別売り）
● ビデオデッキ（別売り）

オーディオ機器を接続する

お願い

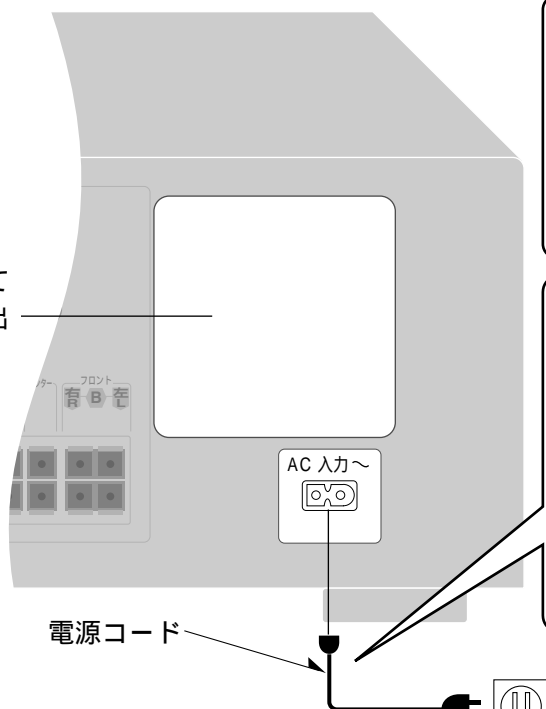
● グラフィックイコライザー（別売り）を使用する場合は、
　本機のテープ/MD 端子の“ 録音 ”とグラフィックイコライザーの入力端子
　本機のテープ/MD 端子の“ 再生 ”とグラフィックイコライザーの出力端子
を接続してください。（➡ 23 ページ）
● イコライザー内蔵のレコードプレーヤー（当社製 SL-J8：別売り）を接続する場合は、レコードプレーヤーの PHONO OUT/LINE OUT 切り換えを“ PHONO OUT ”側にしてください。“ LINE OUT ”側で使用すると大音量を出力し、スピーカーを破損する恐れがあります。

デジタル端子のついた機器を接続する

デジタル入力端子の設定は変更できます（➡ 14 ページ）
光出力のみの CD プレーヤーでも 光1 または 光2 端子に接続して、使用できます。

お知らせ

- 本機は BS デジタル放送の AAC（Advanced Audio Coding）（アドバンスド オーディオ コーディング）の信号には対応していません。BS デジタルチューナー側の設定で、PCM 出力（2ch）にすれば音声を聞くことができます。
- デジタル端子のみで接続している機器からの録音はできません。アナログ端子にも接続して、アナログ入力を選んでください。（➡ 8、20、24 ページ）

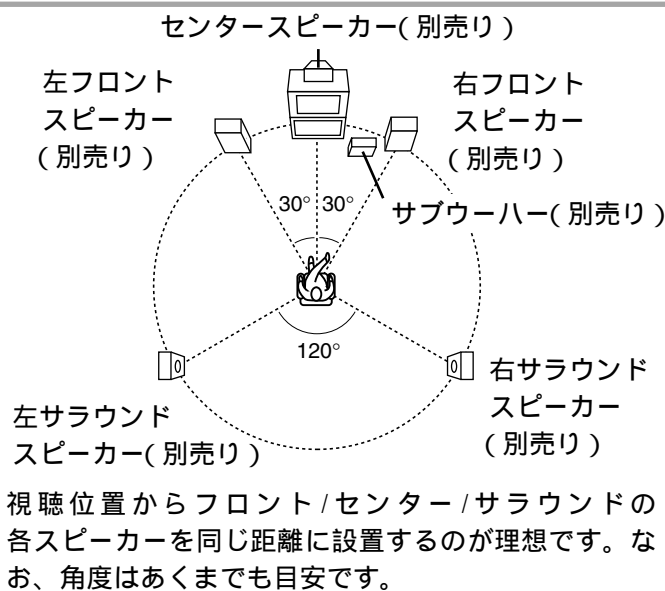
電源コードを接続する

電源コードの接続
他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。

お願い
付属の電源コードは、本機専用です。
他の機器に使用しないでください。

長期間使用しないときは
節電のため電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。
[POWER, ⏻/I] で電源を切った状態でも、約 0.8 W の電力を消費しています。
電源プラグをコンセントから抜いた状態で約 1 ヵ月間そのままにしておくと、本機の各種設定が工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度設定を行ってください。

スピーカーの接続

スピーカーの配置について

視聴位置からフロント/センター/サラウンドの各スピーカーを同じ距離に設置するのが理想です。なお、角度はあくまでも目安です。

フロントスピーカー（左右）
テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調節してください。

センタースピーカー
テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー(左右)
視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サブウーハー
テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。
置く場所によって低域の周波数特性が変化しますので色々試してみてください。例えば、部屋の隅に置くと少し不自然な感じにはなりますが音量が増加します。

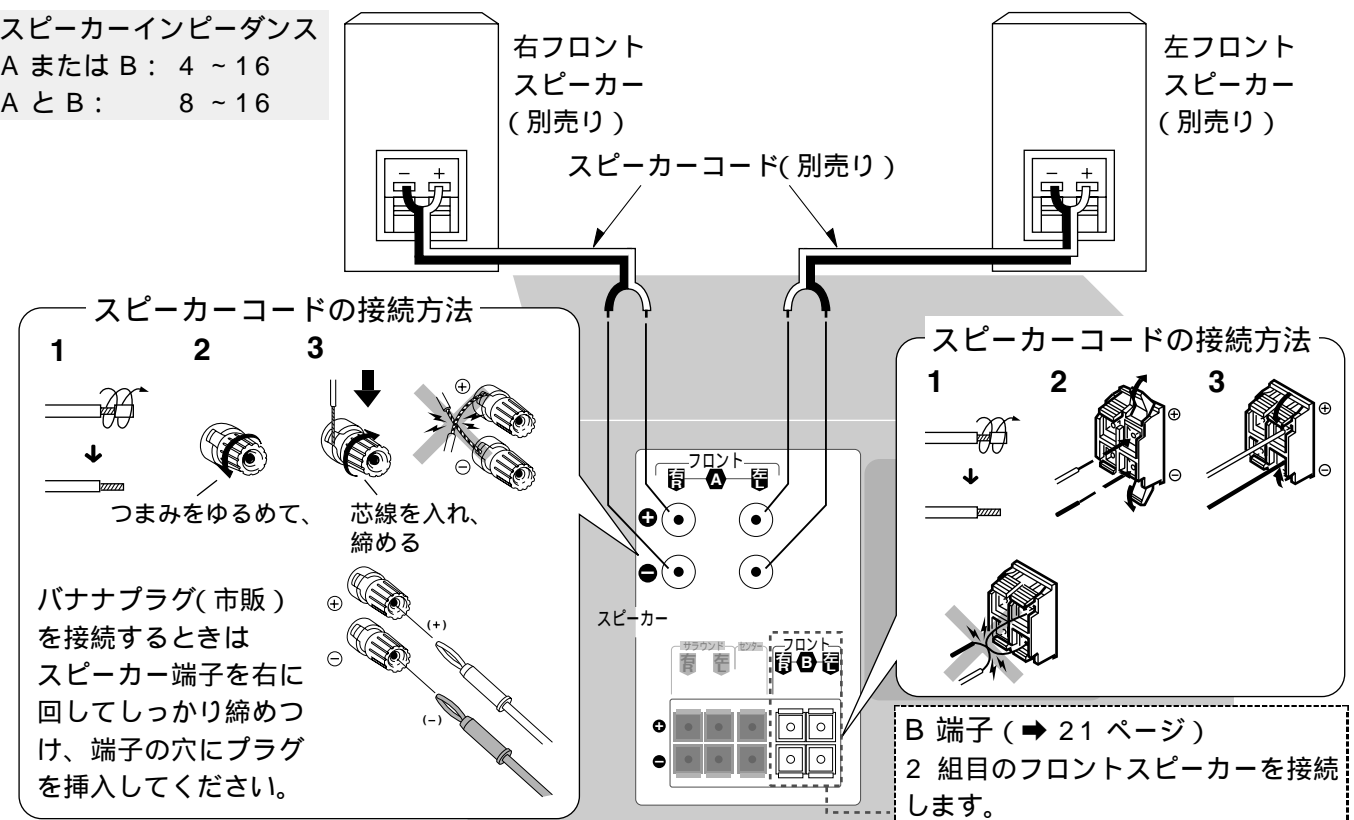
スピーカーの接続

ここでは基本的な接続方法を説明しています。スピーカーシステムにより接続方法が異なる場合がありますので、スピーカーの説明書も合わせてお読みください。

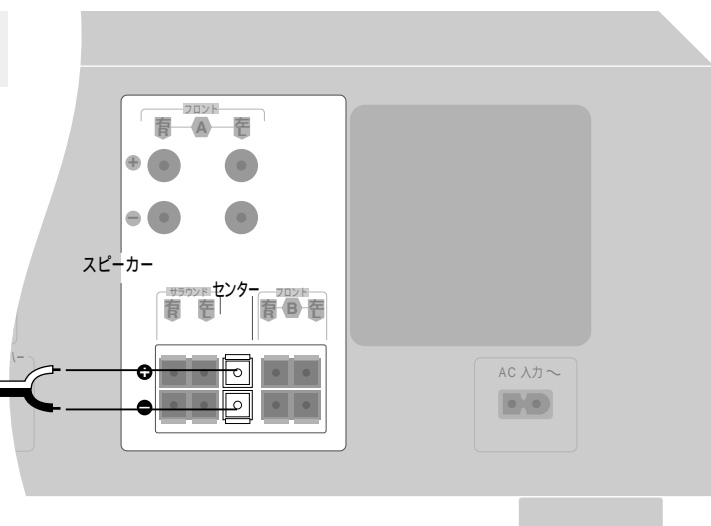
フロントスピーカーの接続

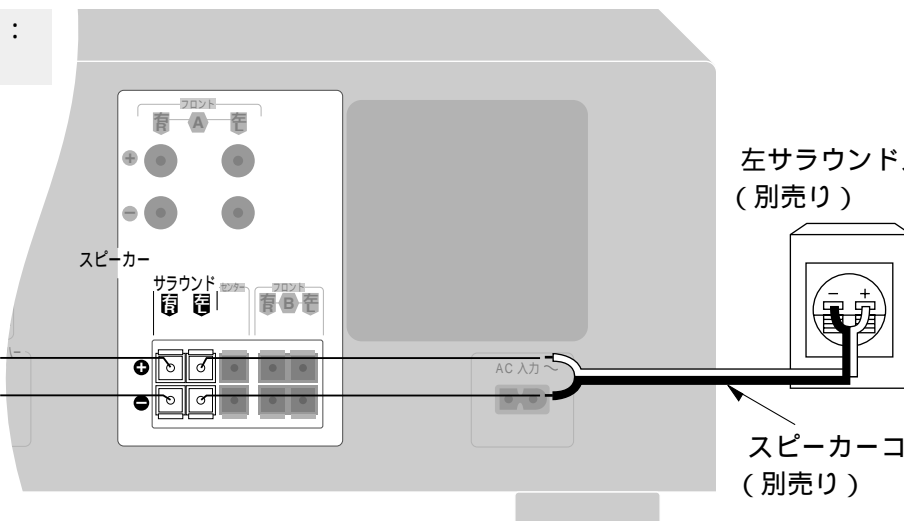
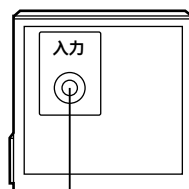
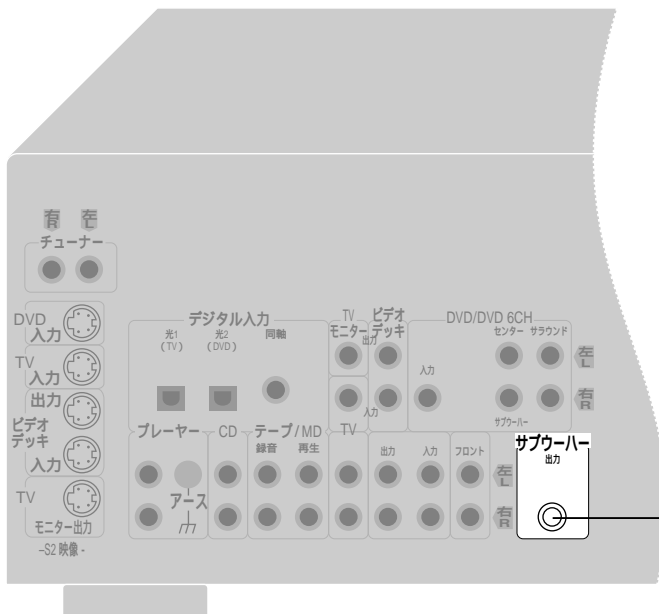
スピーカーインピーダンス
A または B： 4 ～16 Ω
A と B： 8 ～16 Ω

B 端子（➡ 21 ページ）
2 組目のフロントスピーカーを接続します。

お願い

- 4 Ω 以上 6 Ω 未満のインピーダンスのスピーカーを使用する場合は、LOW IMP 設定にしてください。（➡ 15 ページ）
- サラウンド、SFC、DVD 6CH 入力を楽しむ場合は A 端子に接続してください。（➡ 18、21 ページ）
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。
  左、右と＋、－をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。

センタースピーカーの接続

スピーカーインピーダンス：6 ～16 Ω

サラウンドスピーカーの接続

スピーカーインピーダンス：6 ～16 Ω

サブウーハーの接続

お知らせ

本機にはアンプを内蔵していないサブウーハー（パッシブサブウーハー）は接続できません。

アンプを内蔵していないサブウーハーを接続するには

- サブウーハー用にアンプを別に接続する。
- フロントスピーカー端子とサブウーハーをつなげる。（サブウーハーの説明書をお読みください）

アンプの設定を変更する

接続したスピーカーや機器に合わせて設定してください。

10 sec：このマークのある手順は、操作後 10 秒以内に次の手順へ移ってください。そのままにしておくと、設定が取り消され、元の表示に戻ります。

スピーカー設定

■ SIZE（サイズ）

スピーカーの有無とサイズを設定します。

● FRONT/CENTER/SURROUND（フロント/センター/サラウンド）

LARGE：全音域、特に 100 Hz 以下の低音域を十分に再生できるスピーカーを接続したとき

SMALL：低音域を十分に再生できないスピーカーを接続したとき
● FILTER（下記）の設定が必要になります。

NONE：センター/サラウンドスピーカーを接続していないとき

工場出荷時：FRONT：LARGE
CENTER、SURROUND：SMALL

● SUB-WFR（SUBWOOFER）（サブウーハー）

YES：接続しているとき（工場出荷時）
NO：接続していないとき

■ FILTER（フィルター）

● スピーカーの SIZE を“SMALL”に設定した場合のみ、この設定を行ってください。

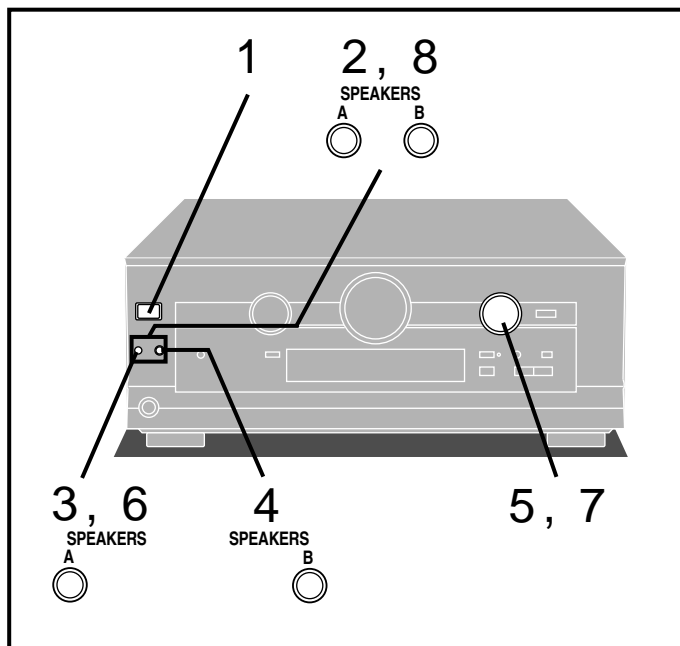
スピーカーが“SMALL”の場合は低音域を十分に再生することができません。そこで、接続するスピーカーの再生周波数帯域に応じて低域フィルターの設定をし、不足している低域成分をサブウーハーに出力させます。

100：100 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき（工場出荷時）
150：150 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき
200：200 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき

スピーカーの説明書もご覧ください。

1
2, 8
SPEAKERS
A B
3, 6
SPEAKERS
A
4
SPEAKERS
B
5, 7

本体表示窓

1 [POWER, ⏻/I] を押す

2 [A] と [B] を同時に押す (10 sec)

SETTING

表示窓に“SETTING”と表示されます。

3 [A] を押して、“SIZE”を選ぶ (10 sec)

SIZE

押すたびに表示が切り換わります。

SIZE → DISTANCE → FILTER
↑ ↓
DIMMER ← D-INPUT ← DR COMP

4 [B] を押して、スピーカーを選ぶ (10 sec)

FRONT

押すたびに表示が切り換わります。

FRONT → CENTER → SURROUND
↑ ↓
SUB-WFR ←

5 [INPUT SELECTOR] を回して、スピーカーの有無とサイズを選ぶ (10 sec)

LARGE

回すたびに表示が切り換わります。

FRONT：SMALL ↔ LARGE
CENTER、SURROUND：
NONE ↔ SMALL ↔ LARGE
SUB-WFR：NO ↔ YES

手順 4 と 5 を繰り返して、すべてのスピーカーの有無とサイズを設定する

6 [A] を押して、“FILTER”を選ぶ (10 sec)

FILTER

押すたびに表示が切り換わります。

SIZE → DISTANCE → FILTER
↑ ↓
DIMMER ← D-INPUT ← DR COMP

7 [INPUT SELECTOR] を回して、低域フィルターの周波数を選ぶ (10 sec)

100

回すたびに表示が切り換わります。

100 ↔ 150 ↔ 200

8 [A] と [B] を同時に押して、設定を終了する

COMPLETE

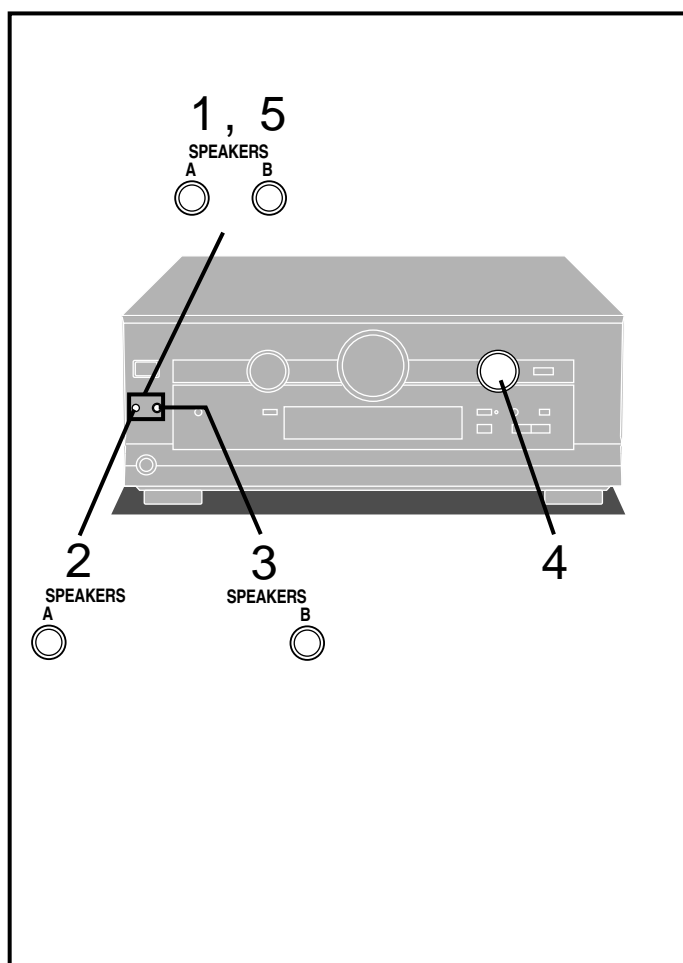
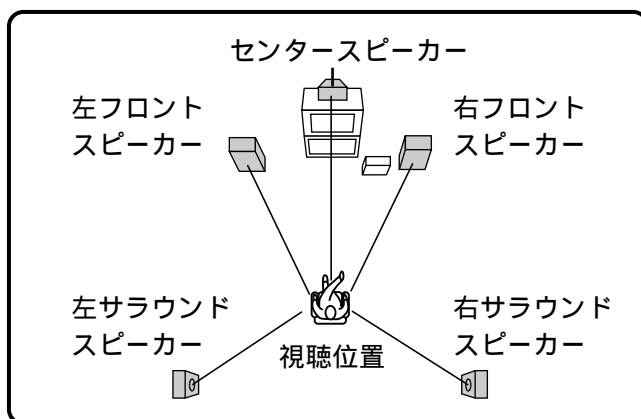
表示窓に“COMPLETE”と表示されます。

スピーカーと視聴位置との距離の設定

■ DISTANCE（距離）

スピーカーの設置位置によって、視聴位置に音が届くタイミングは異なります。本機では、フロント/センター/サラウンドスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、遅延時間（ディレイタイム）を自動的に算出し、このタイミングを補正します。各スピーカー 1.0 m から 10.0 m の間を 0.1 m 間隔で設定できます。

工場出荷時：FRONT、CENTER：3.0 m
SURROUND：1.5 m

あらかじめスピーカーと視聴位置との距離を測っておいてください。

1 ［A］と［B］を同時に押す

10 sec

SETTING

表示窓に“ SETTING ”と表示されます。

2 ［A］を押して、“ DISTANCE ”を選ぶ

10 sec

DISTANCE

押すたびに表示が切り換わります。
SIZE → DISTANCE → FILTER
DIMMER ← D-INPUT ← DR COMP

3 ［B］を押して、スピーカーを選ぶ

10 sec

FRONT

FRONT → CENTER → SURROUND

4 ［INPUT SELECTOR］を回して、距離を設定する

10 sec

3.0 m

1.0 m ～ 10.0 m

手順 3 と 4 を繰り返して、フロント/センター/サラウンドスピーカーと視聴位置との距離を設定する

5 ［A］と［B］を同時に押して、設定を終了する

COMPLETE

表示窓に“ COMPLETE ”と表示されます。

お知らせ

- 接続したスピーカーの説明書もお読みください。
- 本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。
- 当社製 SB-HEP20（スピーカーシステム：別売り）を接続した場合は、各スピーカーの SIZE を“ SMALL ”にし、FILTER を“ 100 ”に設定することをおすすめします。

接続したスピーカーや機器に合わせて設定してください。

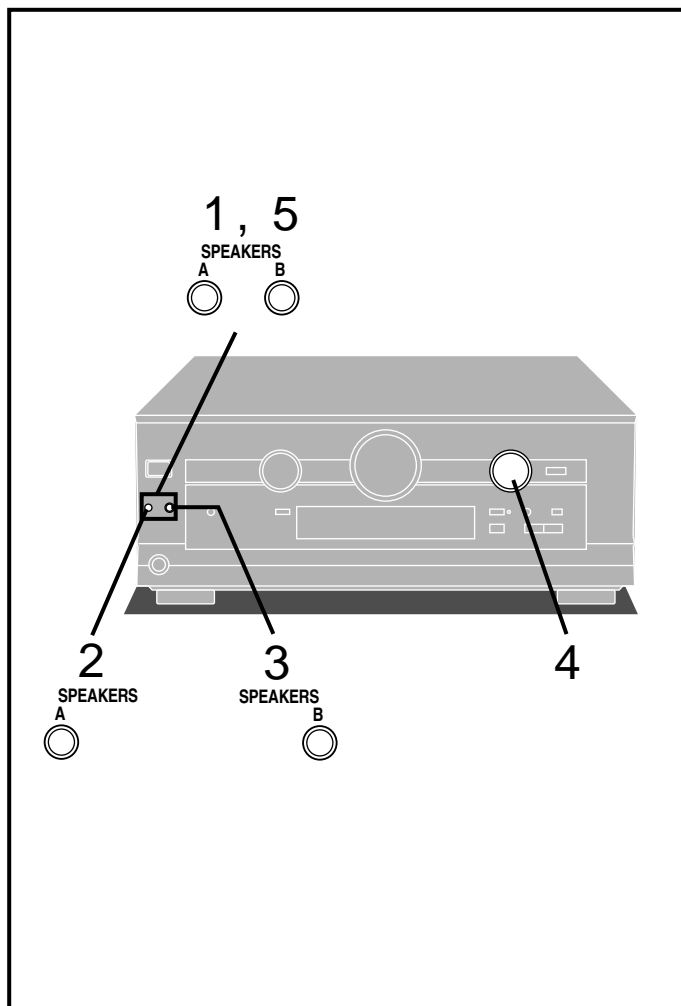
10 sec：このマークのある手順は、操作後 10 秒以内に次の手順へ移ってください。そのままにしておくと、設定が取り消され、元の表示に戻ります。

デジタル入力端子の設定

■ D-INPUT（デジタルインプット）

接続した機器に合わせてデジタル入力端子（同軸、光1、光2）の設定を変更します。（➡ 7、9 ページ）

工場出荷時：CD：COAX（同軸）
DVD：OPT2（光2）
TV：OPT1（光1）

- 例：光1 のデジタル入力端子に CD プレーヤーを接続した場合
  右記の操作手順 3 で CD を選び、手順 4 で OPT1 を選んでください。

1 10 sec **[A] と [B] を同時に押す**

表示窓に“ SETTING ”と表示されます。

2 10 sec **[A] を押して、“ D-INPUT ” を選ぶ**

押すたびに表示が切り換わります。

SIZE → DISTANCE → FILTER
↑　　　　　　　　　　↓
DIMMER ← D-INPUT ← DR COMP

3 10 sec **[B] を押して、デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ**

押すたびに表示が切り換わります。

CD COAX → DVD OPT2 → TV OPT1

下線部には現在設定されているデジタル入力端子が表示されます。

4 10 sec **[INPUT SELECTOR] を回して、デジタル入力端子を選ぶ**

回すたびに手順 3 の下線部の表示が切り換わります。

COAX ↔ OPT1 ↔ OPT2

ひとつの入力に対してひとつのデジタル入力端子しか設定できません。

手順 3 と 4 を繰り返して、すべてのデジタル入力端子を設定する

5 **[A] と [B] を同時に押して、設定を終了する**

表示窓に“ COMPLETE ”と表示されます。

お知らせ

- 接続した機器の説明書もお読みください。
- 本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます

ダイナミックレンジの圧縮とディマーの設定

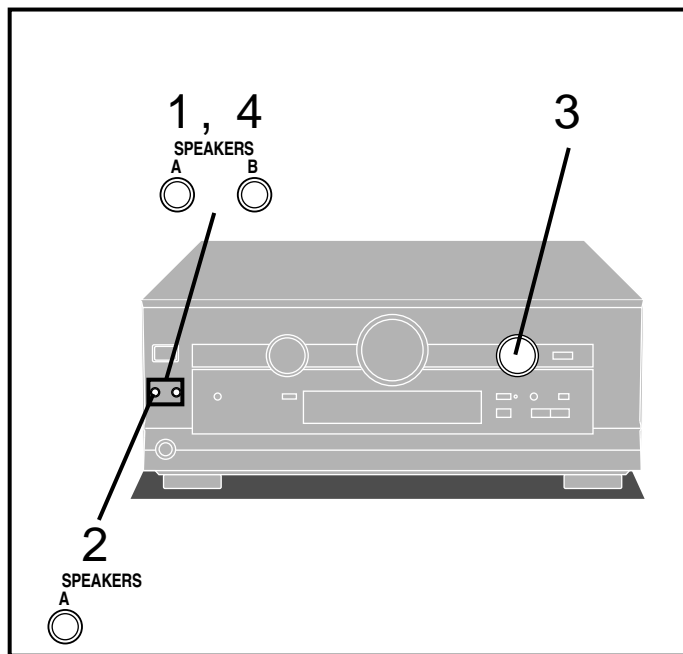
小音量でも聞きやすい音にする → DR COMP
表示窓を暗くする → DIMMER

■ DR COMP（ダイナミックレンジの圧縮）

深夜など大きな音を出せない場合にこの設定を行ってください。音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でも聞きやすい音にします。この設定はダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのソフトのみ有効です。

OFF：通常の再生（工場出荷時）
STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベルです。
MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

■ DIMMER（ディマー）

部屋を暗くしてソースを再生するような場合に、表示窓を暗くすることができます。工場出荷時は OFF（通常の明るさ）です。

1 10 sec **[A] と [B] を同時に押す**

SETTING

表示窓に“ SETTING ”と表示されます。

2 10 sec **[A] を押して、“ DR COMP ”または“ DIMMER ”を選ぶ**

押すたびに表示が切り換わります。

SIZE → DISTANCE → FILTER
↑ ↓
DIMMER ← D-INPUT ← DR COMP

3 10 sec **設定を変更する**

■ DR COMP

DR COMP

[INPUT SELECTOR] を回して、圧縮レベルを選ぶ

回すたびに表示が切り換わります。

OFF ↔ STANDARD ↔ MAX

■ DIMMER

DIMMER

[INPUT SELECTOR] を回して、ON（入）と OFF（切）を切り換える

OFF

回すたびに表示が切り換わります。

OFF ↔ ON

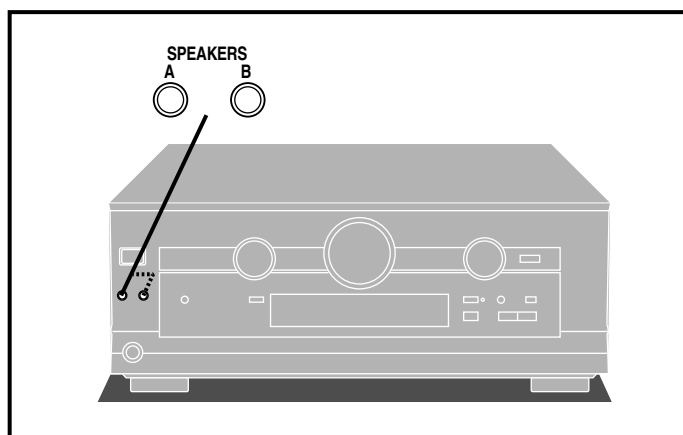
4 **[A] と [B] を同時に押して、設定を終了する**

COMPLETE

表示窓に“ COMPLETE ”と表示されます。

お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

LOW IMP の設定

スピーカーインピーダンスが 4 Ω 以上 6 Ω 未満のフロントスピーカーを接続している場合は、本機を低インピーダンスモードにしてください。

[A] または [B] を、“ LOW IMP ”が表示されるまで（約 4 秒）押す

SPEAKERS
A LOW IMP

もう一度同じ操作をすると、設定は解除されます。

お知らせ

“ LOW IMP ”が点灯している間はスピーカー A と B を同時に使用できません。

スピーカーレベルを調整する

視聴位置で、フロントスピーカーとすべてのスピーカーからの音が同じ音量で聞こえるように調整します。

1 [A] を押して、スピーカー A をオンにする

スピーカー B では出力レベルを調整できません。

2 [TEST] を押して、テスト信号を出力させる

STEREO モードや SFC モードのときにテスト信号を出すと、SURROUND モードに切り換わります。テスト終了後にもう一度 DSP サウンドモードを選んでください。(➡ 20 ページ)

テスト信号が約 2 秒間隔で各スピーカーから下記の順に出力されます。

L：フロントスピーカー（左）
C：センタースピーカー
R：フロントスピーカー（右）
RS：サラウンドスピーカー（右）
LS：サラウンドスピーカー（左）
SW：サブウーハー

スピーカー設定で SIZE を“ NONE ”や“ NO ”に設定したスピーカーはスキップされます。
(➡ 12 ページ)

3 [− VOLUME +] を押して、フロントスピーカーの音量を調節する

必要であれば左右の音量バランスを調節してください。(➡ 22 ページ)

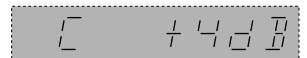
4 [LEVEL] を押して、調整するスピーカー（センター/サラウンド/サブウーハー）を選ぶ

C 0dB

押すたびに表示が切り換わります。

C → RS → LS → SW

スピーカー設定で SIZE を“ NONE ”や“ NO ”に設定したスピーカーはスキップされます。
(➡ 12 ページ)

5 [−] または [+] を押して、フロントスピーカーと同じ音量に調整する

センター/サラウンドスピーカーの音量を −10 dB から +10 dB の範囲で調整できます。
サブウーハーの音量を MIN、1 から 19、MAX の範囲で設定できます。

手順 4 と 5 を繰り返して、各スピーカーとフロントスピーカーとを同じ音量に調整する

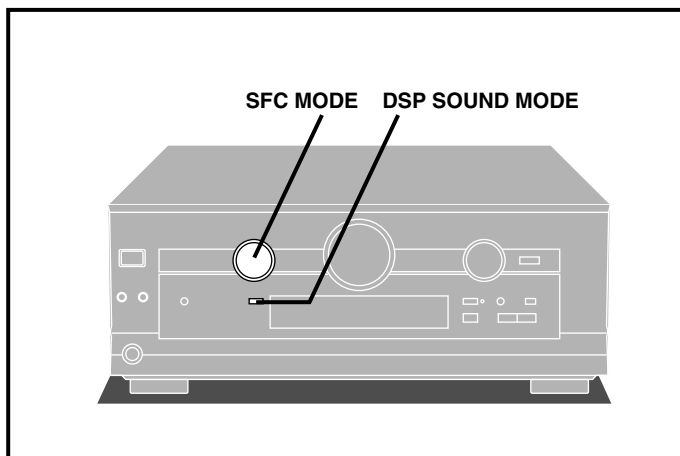
6 [TEST] を押して、テスト信号を止める

お知らせ

- 手順 4、5 では、テスト信号は調整しているスピーカーからのみ出力されます。調整を終えた後、操作をしないでいると、再び各スピーカーから順に出力されます。
- DVD 6CH 入力が選択されているときはテスト信号は出力されません。(➡ 21 ページ)

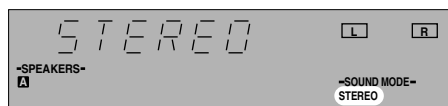
DSP（Digital Signal Processor）とサラウンドについて

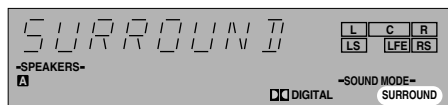
本機の DSP サウンドモード	本機で再生できるサラウンドシステム	供給ソフト	特　徴
SURROUND（サラウンド）	Dolby Pro Logic（ドルビー プロ ロジック）	DOLBY SURROUND このマークのついた ● ビデオテープ ● レーザーディスク ● DVD ● CD など	Dolby Pro Logic は、Dolby Surround のソースをよりリアルな音場で再生するために開発されたデコードシステムです。 センタースピーカーチャンネルを独立させることで、特に定位感を向上させています。
	Dolby Digital（ドルビー デジタル）	DOLBY DIGITAL このマークのついた ● DVD など	ドルビー研究所が開発したディスクリート 6（5.1）チャンネル方式を用いたデジタルサラウンドシステムの 1 つです。 モノラルから 5.1 チャンネルの音声に対応しています。
	DTS（ディーティーエス）	DIGITAL dts SURROUND このマークのついた ● DVD ● ビデオテープ ● レーザーディスク ● CD など	DTS 社が開発した音声圧縮方式で、ディスクリート 6（5.1）チャンネル方式を用いたデジタルサラウンドシステムの 1 つです。 DTS ソースは、全チャンネル使用を前提に作成されています。
SFC（エスエフシー） HALL（ホール） CLUB（クラブ） LIVE（ライブ） THEATER（シアター） SIM SURR（シミュレーティッドサラウンド）	SFC（エスエフシー） Sound Field Control（サウンド フィールド コントロール）	上記フォーマット以外の、あらゆるソース（音楽 CD、ビデオテープなど）で楽しむことができます。	ソースの信号をアンプ側でデジタル処理することにより、サラウンド効果を造り出す機能です。再生音に広がりや残響を与えることで、色々な音場感（コンサートホール、ジャズクラブなど）を楽しむことができます。

DSP サウンドモードについて

本機の DSP（Digital Signal Processor）サウンドモードには、STEREO、SURROUND、SFC モードがあります。
PCM（通常の音楽 CD など）、ドルビーデジタルや DTS のデジタル信号で記録されたソフトを再生したり、アナログや PCM のステレオ音声にサラウンド効果を付けるなど幅広くお楽しみいただけます。

お知らせ

本機では PCM（44.1 kHz や 48 kHz）、ドルビーデジタルや DTS 以外のデジタル信号を処理することはできません。例えば、96 kHz や 192 kHz のサンプリング周波数をもつ PCM や MPEG などの信号は再生できません。

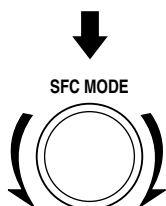
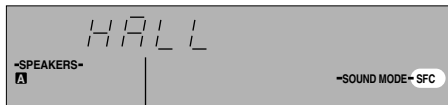
STEREO モード

アナログや PCM のステレオ音声（2 チャンネル）が楽しめます。また、ドルビーデジタルや DTS のソースを 2 チャンネルで再生する場合も使用できます。その場合には各スピーカーに分割された信号をフロントスピーカーに集約して出力（ダウンミックス出力）します。

SURROUND モード

デジタル入力を使用中にこのモードを選ぶと、ドルビーデジタルや DTS のデジタルソースのフォーマットを本機が自動的に判別し、信号処理を行います。また、ドルビーサラウンド録音されたアナログソース（ビデオテープなど）をドルビープロロジックで再生する場合も使用できます。

SFC モード

SFC とは Sound Field Control（音場コントロール）の略で、アナログや PCM のステレオソース再生時に好みの臨場感や広がり感を与えることができます。
再生する映画や音楽に合わせて HALL、CLUB、LIVE、THEATER、SIM SURR（シミュレーティッドサラウンド）の 5 つの音場が選べます。

お知らせ

ドルビーデジタルや DTS のソースは SFC モードでは再生できません。

HALL

大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がりがあります。

CLUB

ジャズクラブのような、天井が低く、音が反射しやすい硬い面で囲まれた狭い部屋をイメージしています。そのため演奏者がすぐ近くにいるような、臨場感のあるサウンドが得られます。

LIVE

ボーカルの声を際立たせることにより、ライブステージを聞いているような効果を出します。

THEATER

映画の中の音源とその距離感がはっきりとし、また音の広がりがごく自然に再現されます。

SIM SURR（シミュレーティッドサラウンド）

サラウンドスピーカーから音が出ていないとき、またその音が小さい場合にこのモードをお試しください。
広い空間で響いているような広がり感があります。またモノラルソースの場合でも、サラウンドスピーカーから音を出すことで同様の効果を得られます。

フォーマットの表示について

● 信号フォーマット

ソースにより次の表示がでます。

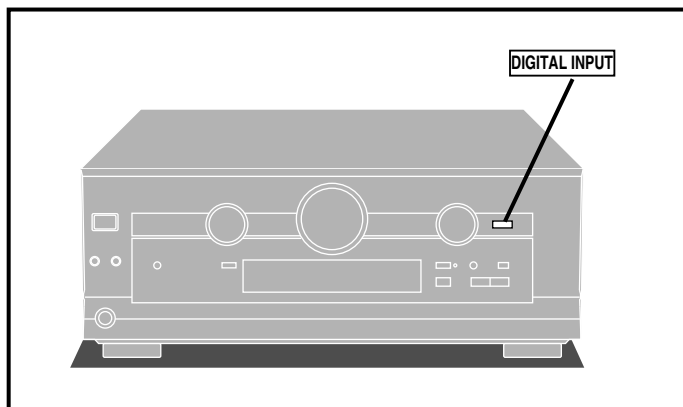
DIGITAL：
ドルビーデジタルソースを再生したとき

DTS：
DTS ソースを再生したとき

PRO LOGIC：
アナログ、PCM またはドルビーデジタルの 2 チャンネルソースを、あるいはドルビーサラウンドで録音されたソースを SURROUND モードで再生したとき

● プログラムフォーマット

デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。入力がアナログのときは表示されません。
L：フロントチャンネル（左）
C：センターチャンネル
R：フロントチャンネル（右）
LS：サラウンドチャンネル（左）
RS：サラウンドチャンネル（右）
S：サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示
LFE：重低音効果チャンネル

PCM FIX モード/DTS FIX モード

PCM あるいは DTS のデジタル信号のみを処理するように設定します。
正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。

PCM FIX： CD を再生したとき、曲の始まりが途切れる場合
DTS FIX： DTS ソースを再生しても、ソースが自動判別されず、表示窓に DTS の信号フォーマットが表示されない場合

これらの設定を解除する場合は“ AUTO ”（工場出荷時）を選択してください。

お知らせ

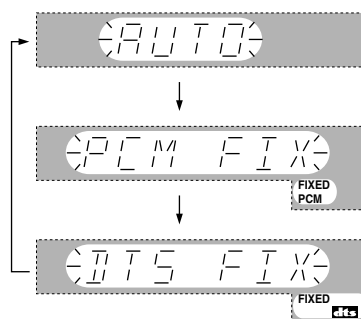
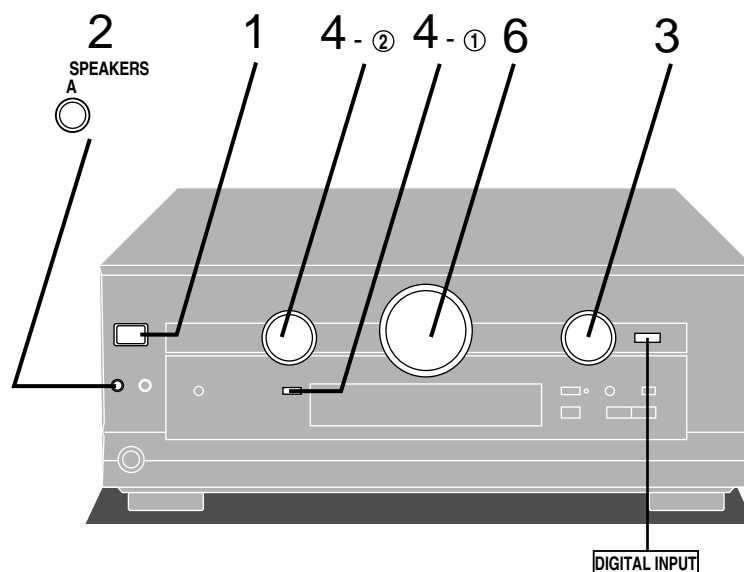
- PCM FIX モードのときは PCM 以外の、DTS FIX モードのときは DTS 以外の入力信号は処理されません。
- ノイズが発生する場合は“ AUTO ”を選んでください。
- 本機の電源を切っても設定内容は記憶されています。

入力ソースを選び、デジタル入力に設定した状態で
［DIGITAL INPUT］を（約 4 秒）押し続ける

現在設定されているモードが表示されます。もう一度押すとモードを変更することができます。
押すたびに表示が切り換わります。
AUTO → PCM FIX → DTS FIX

本体表示窓

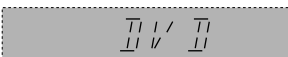
DSP サウンドモードについて

楽しむ

ホームシアターを楽しむ

1 [POWER, ⏻/I] を押す

2 [A] を押す

[B] をオンにした状態で SURROUND モードや SFC モードを選択することはできません。
[B] をオンにすると STEREO モードになり、音声はスピーカー A、B ともにステレオ出力になります。

3 [INPUT SELECTOR] を回して、入力ソースを選ぶ

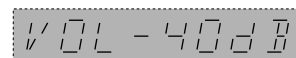
DVD、CD や TV を選択したときに、アナログかデジタル入力に切り換えるには [DIGITAL INPUT] を押す
押すたびに表示が切り換わります。
ANALOG ↔ DIGITAL
“ DIGITAL ”を選ぶとボタンの上のランプが点灯します。
アナログまたはデジタル入力は、入力ソースごとに設定でき、その状態を記憶します。

4 DSP サウンドモードを選ぶ

① **[DSP SOUND MODE] を押す**
表示窓に選んだモードが表示されます。
ソースにあったモードを選んでください。
(➡ 18 ページ)

②**“ SFC ”を選んだ場合 [SFC MODE] を回して、SFC モードを選ぶ**

DSP サウンドモードは、入力ソースごとに設定でき、その状態を記憶します。

5 ソースを再生する
くわしくは再生機器の説明書を参照ください。

6 [VOLUME] を回して、音量を調節する

再生を楽しんだ後は
音量を下げてから [POWER、⏻/I] を押して電源を切ってください。

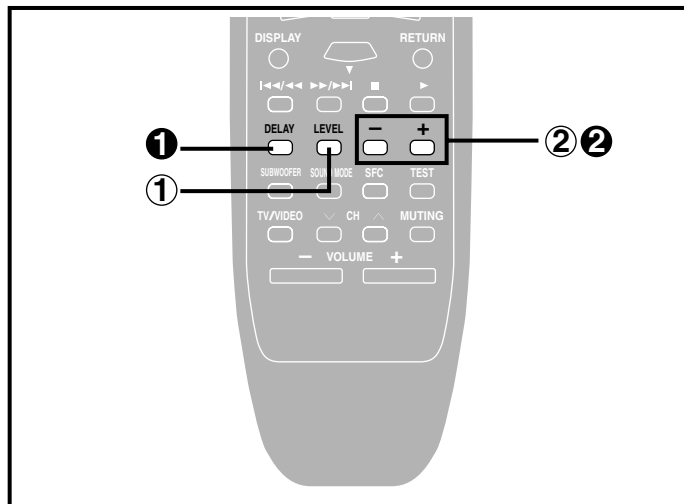
お知らせ

ビデオを見ているときに他の入力 (TAPE/MD、CD、TUNER、PHONO) に切り換えると、ビデオの音は消えますが映像はそのまま残り、BGV (バックグラウンドビジュアル) 機能として楽しむことができます。

SFC モードの音場効果を調節する（リモコンのみ）

SFC モードで再生しているとき、スピーカーレベルやディレイタイムを調節して、好みの音場をつくることができます。

お知らせ

スピーカーレベルとディレイタイムは SFC モードごとに調節でき、その状態を記憶します。

スピーカーレベルを調節する

① **[LEVEL]を押して、スピーカーを選ぶ**
押すたびに表示が切り換わります。
C → RS → LS → SW
スピーカー設定で SIZE を“ NONE ”や“ NO ”に設定したスピーカーはスキップされます。
(➡ 12 ページ)

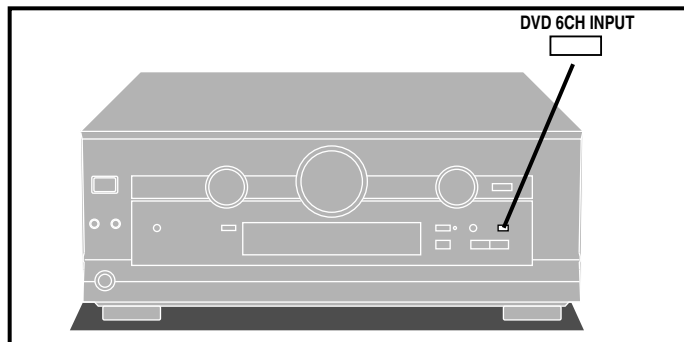
② **[−]または[+]を押して、出力レベルを調節する**
C、RS と LS：−10 dB から +10 dB
（工場出荷時：0 dB）
SW：---（オフ）↔ MIN ↔ 1〜19 ↔ MAX
（工場出荷時：SW 10）

ディレイタイムを調節する

❶ **[DELAY]を押す**

❷ **[−]または[+]を押して、好みのディレイタイムを選ぶ**
10 ms から 100 ms の範囲を、10 ms 間隔で設定できます。（工場出荷時：50 ms）

DVD 6CH のアナログ音声を楽しむ

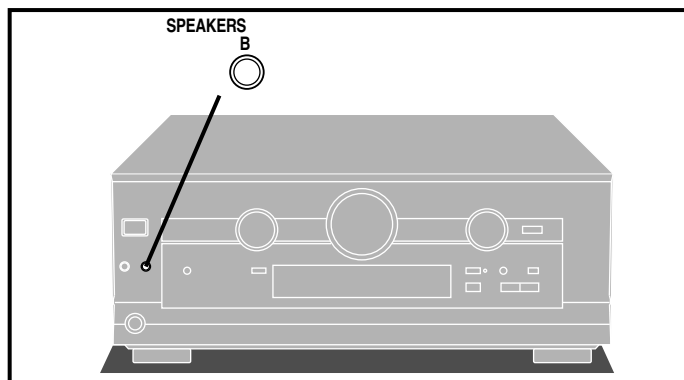
DVD プレーヤーのアナログ音声出力と本機の DVD 6CH 入力を接続して、DVD オーディオや DVD ビデオなどの高音質な音声を楽しむことができます。

[DVD 6CH INPUT]を押す

DVD 6CH

押すたびに表示が切り換わります。
DVD ↔ DVD 6CH
[DVD 6CH]を押すと、他の入力ソースを選んでいた場合でも“ DVD 6CH ”になります。
“ DVD 6CH ”を選ぶと DVD 6CH INPUT ボタンが点灯します。
いったん“ DVD 6CH ”に設定すると、後は入力ソースの切り換えを“ DVD ”にするだけで自動的に DVD 6CH 入力になります。

お知らせ

- DVD 6CH 入力はスピーカー A でのみ使用できます。スピーカー B をオンにすると DVD 6CH 入力は解除され“ DVD ”になります。
- DVD 6CH 入力を使うと DSP サウンドモードは選択できません。
- DVD 6CH 入力を使うと本機のスピーカー設定は無効になります。DVD プレーヤーで設定を行ってください。(➡ 12 ページ)

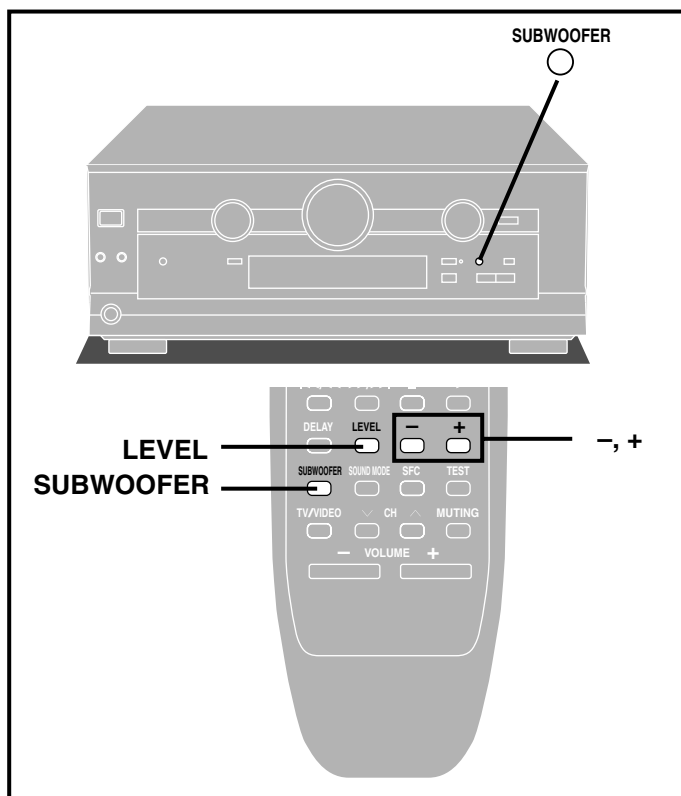
スピーカー B を使う

B 端子にスピーカーを接続して楽しむことができます。
スピーカー B がオンの状態では STEREO モードになります。

SPEAKERS B

[B]を押す

A 端子に接続したスピーカーの音を消したいときは、[A]を押してスピーカー A をオフにしてください。

サブウーハーレベルを調節する

ソースを再生している間にサブウーハーの出力レベルを調節できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調節できます。

[SUBWOOFER]を押す

SW 10

現在の設定が表示されます。
押すたびに表示が切り換わります。

SW --- → SW MIN → SW 5
↑　　　　　　　　　↓
SW MAX ← SW 15 ← SW 10（工場出荷時）

● " SW --- "を選んでいるとサブウーハーからは何も出力されません。

1 段階ずつ調節するには（リモコンのみ）

① [LEVEL]を押して" SW "を選ぶ
② [–]または[+]を押す

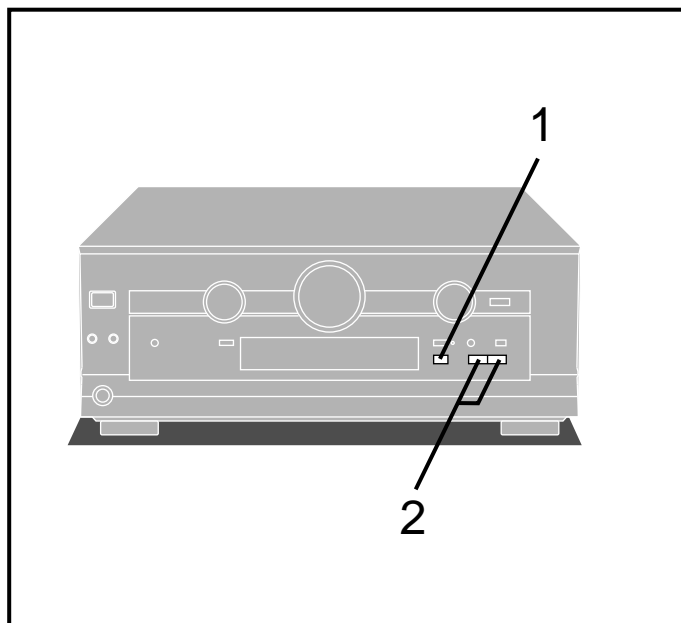
お知らせ

● DVD 6CH 入力を選んでいるときは調節できません。
● サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げるとサブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。

音質や左右の音量バランスを調節する

BASS と TREBLE を調節できるのは DSP サウンドモードが STEREO モードの状態で、アナログ入力か、デジタル入力の場合は PCM のときのみです。

お知らせ

操作後、約 4 秒間そのままにしておくと元の表示に戻ります。

1 [BASS/TREBLE, BALANCE]を押す

押すたびに表示が切り換わります。

BASS

BASS → TREBLE → BALANCE
↑＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿｜

BASS：低音を調節するとき
TREBLE：高音を調節するとき
BALANCE：左右の音量バランスを調節するとき

2 [–, L]または[+, R]を押す

–, L：低音/高音のレベルを下げる、または音量バランスを左スピーカー側に移すとき
+, R：低音/高音のレベルを上げる、または音量バランスを右スピーカー側に移すとき

BASS, TREBLE

0dB

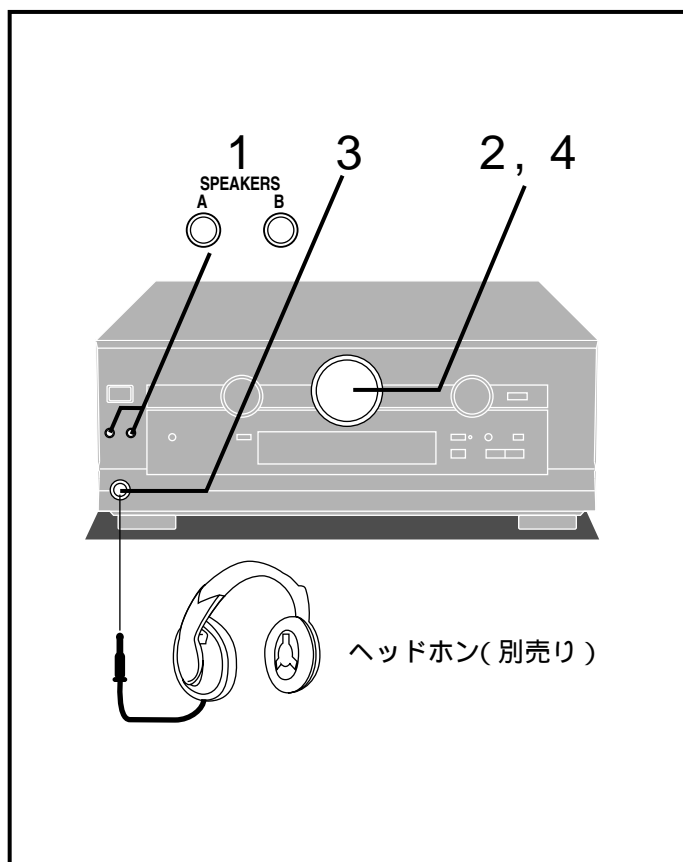
–10 dB～+10 dB

BALANCE

L　R

バー（センター位置）

● バーの位置はボタンを数回押すと変わります。（表示はあくまでも目安です。）

ヘッドホンで聞く

1 [A]、[B] を押して、スピーカーをすべてオフにする

スピーカーをオフにすると自動的に STEREO モードになります。（スピーカーをオンにし、SURROUND や SFC モードの状態でヘッドホンを使用すると、正しく音声を聞くことができません。必ずすべてのスピーカーをオフにするか、STEREO モードを選んでください。）

2 音量を下げる

3 ヘッドホンを接続する

プラグタイプ：ステレオ大型（M6）

4 音量を調節する

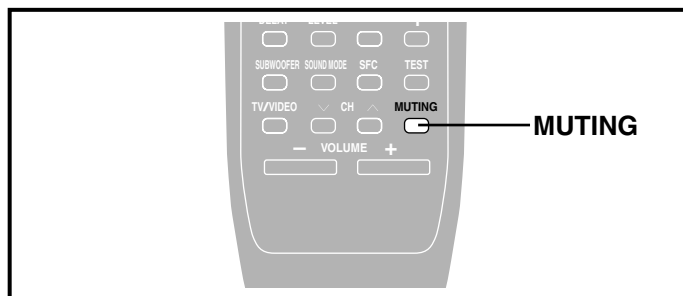
お願い

耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット シンボルマーク

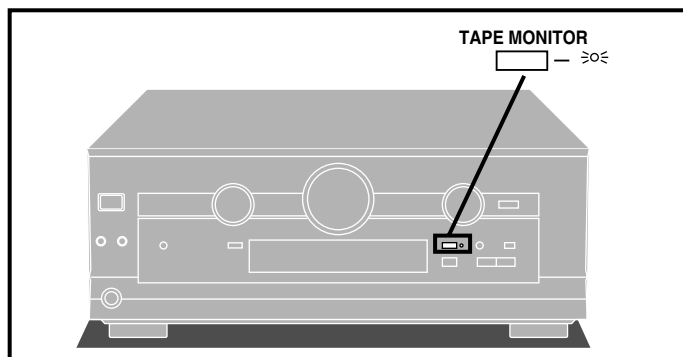
一時的に音を消す（ミューティング）

リモコンのみ

[MUTING] を押す

機能が働いている間、表示窓に“ MUTING ON NOW ”と繰り返し表示（スクロール）されます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

お知らせ

本機の電源を切ると、ミューティングは解除されます。

テープモニターを使用する

テープ/MD 端子にグラフィックイコライザーを接続して使用する場合は、この機能をオンにします。

[TAPE MONITOR] を押す

TAPE MONITOR ランプが点灯し、テープモニターが働きます。もう一度押すとテープモニターは終了します。

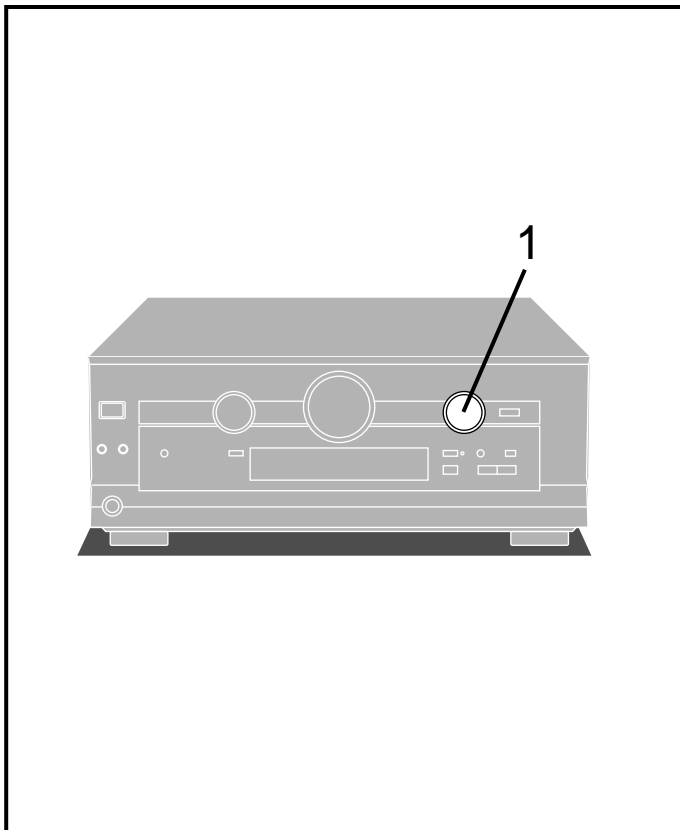
（録音時のテープをモニターする場合についてくわしくは 24 ページの“ 録音・録画 ”をご覧ください）

お知らせ

- デジタル入力を選択中には、テープモニターは働きません。また、使用中にデジタル入力を選択するとテープモニターは解除されます。
- 接続したグラフィックイコライザーの設定により、音がひずむことがあります。

録音・録画

カセットデッキや MD デッキに録音する/ビデオデッキに録画する

“テープ/MD 録音”端子に接続したカセットデッキや MD デッキ、“ビデオデッキ”端子に接続したビデオデッキに録音・録画できます。
録音・録画についてくわしくは録音・録画機器の説明書をご覧ください。

準備
本機と再生機器をアナログ接続して、アナログ入力を選んでください。デジタル接続での録音はできません。
(➡ 7、8、20 ページ)

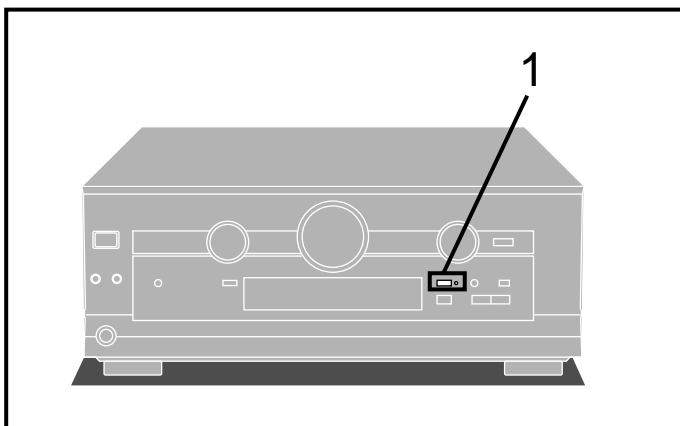
1 [INPUT SELECTOR]を回して録音・録画するソースを選ぶ

2 録音・録画を始める
くわしくはカセットデッキ、MD デッキやビデオデッキの説明書をご覧ください。

3 録音・録画するソースの再生を始める
くわしくは再生機器の説明書をご覧ください。

お知らせ

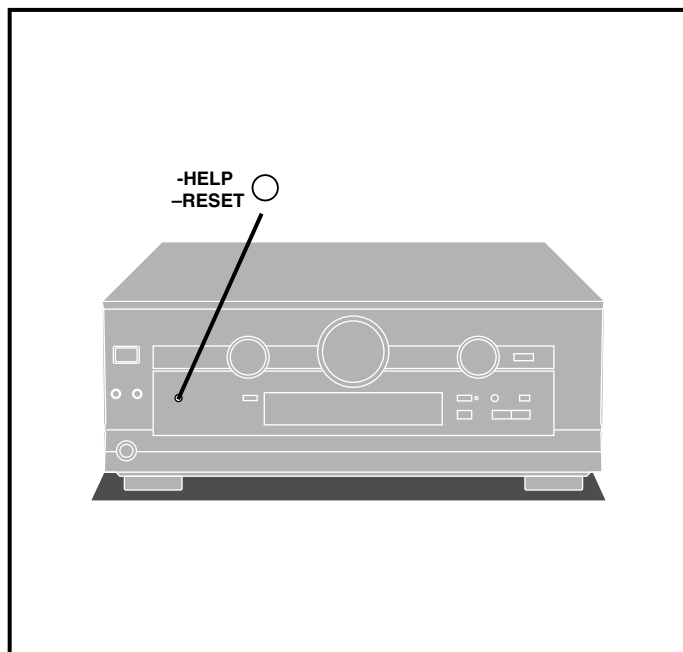
- DVD 6CH 入力を選んでいる場合は、左右フロントチャンネルの音しか録音されません。
- カセットデッキまたは MD デッキから、ビデオデッキへの録音はできません。
- コピーガードされた DVD などはビデオデッキに録画できません。

カセットデッキに録音している音をモニターする

3 ヘッドのカセットデッキをテープ/MD 端子に接続している場合、録音されたテープの音を確認することができます。

1 [TAPE MONITOR]を押す
TAPE MONITOR ランプが点灯し、テープモニターが働きます。

2 カセットデッキのモニターボタンを“TAPE”にセットする
くわしくはカセットデッキの説明書をご覧ください。

[TAPE MONITOR]をもう一度押すと解除されます。

ヘルプ・リセット機能

ヘルプ機能

ソースの再生を始めても音が出ないときや、気づかずに誤操作をしてしまったときなどにその原因や処置方法を表示します。
“ERROR”表示やスクロール表示(“SPEAKER OFF NOW”など)が出た場合にも行ってください。

[-HELP, −RESET] を押す

リセット機能

本機のさまざまな設定(ドルビーデジタルの出力調整など)を工場出荷時の状態に戻すことができます。

[-HELP, −RESET]を押したままにして(約 2 秒)、“RESET”が表示されたら指を離す

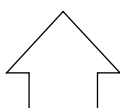
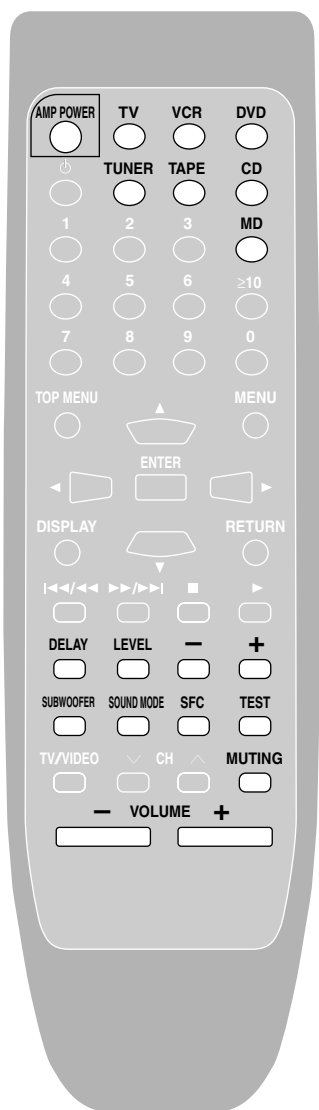
ヘルプ/エラー表示一覧 ([HELP]を押したときの他、誤操作したときや電源を入れたときに表示されます。)

[HELP] を押したとき

SELECT SPEAKER A OR B	スピーカーシステムがオフになっています。SPEAKERS の[A]または[B]を押してください。
SELECT ONLY SPEAKER A	スピーカー A しか選べません。
SELECT ONLY SPEAKER A OR B	“LOW IMP”の設定になっているため、スピーカーシステムは[A]か[B]の片方しか選べません。
PRESS THE MUTING BUTTON ON REMOTE CONTROL	ミューティングが働いています。リモコンの[MUTING]を押して解除してください。
OPERATING CORRECTLY NOW	設定は正しく行われています。音が出ない場合はコードの接続などを確認してください。
SWITCH OFF POWER	保護回路が働いています。[POWER]を押して電源を切ってください。

電源を入れたとき

SPEAKER OFF NOW	スピーカーシステムが[A]、[B]ともオフになっています。

誤操作したとき

NOT POSSIBLE WHEN SPEAKER B IS SELECTED	スピーカー B が選ばれているため SURROUND、SFC の各モード、および DVD 6CH 入力は選べません。
SELECT ANOTHER SOUND MODE	そのフォーマットに合った再生モードを選んでください。
NOT POSSIBLE WHEN DIGITAL INPUT IS SELECTED	デジタル入力選択中は、テープモニターはできません。
NOT POSSIBLE IN 6CH DISCRETE INPUT	DVD 6CH 入力中は DSP の各モードを選べません。
DSP IS DEFEATED NOW	DSP の動作を停止させているため、DSP の各モードは選べません。
SELECT ANOTHER SOURCE	入力が TAPE/MD のときはテープモニターは選べません。

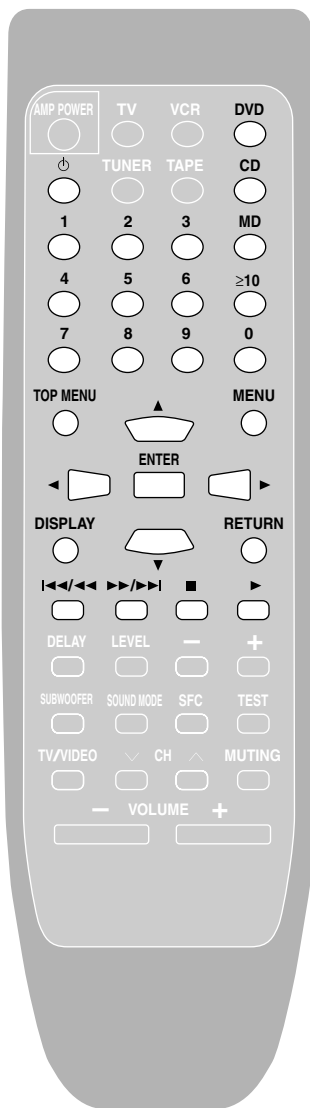
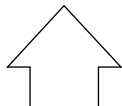
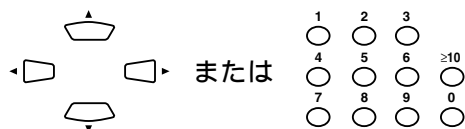
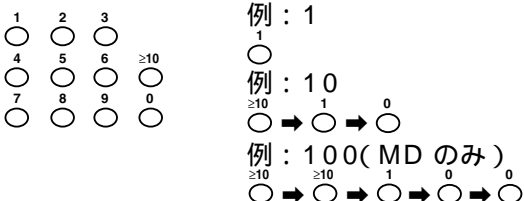
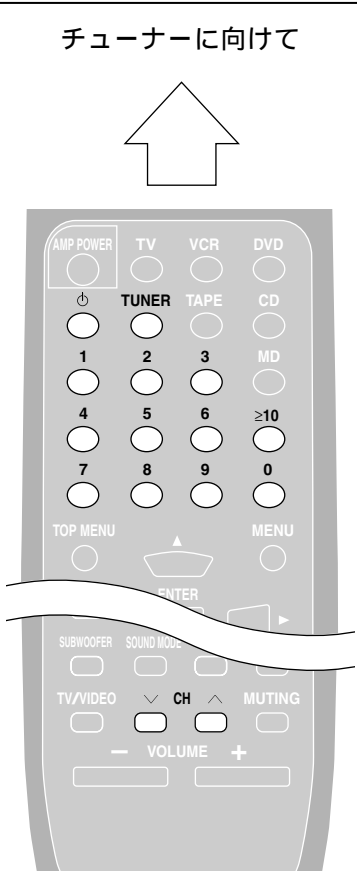
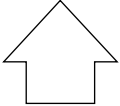
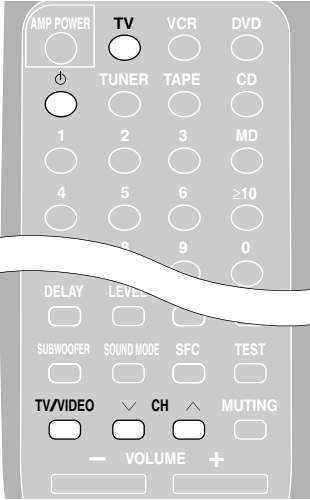
リモコンでの操作

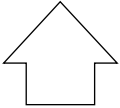
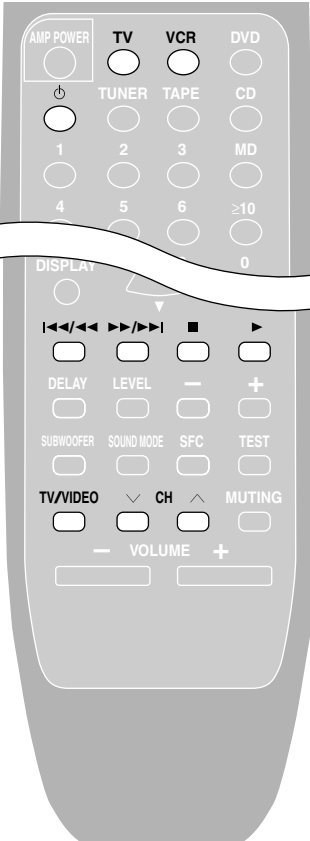
本機の他、当社製(パナソニック/テクニクス)の DVD プレーヤーや CD プレーヤー、MD デッキ、チューナー、カセットデッキ、テレビ、ビデオデッキを本機のリモコンで操作できます。(ただし本機のリモコンでは、操作のできない機種があります。)
各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

本機を操作する

操作	ボタン
電源を入/切する	AMP POWER
入力ソースを選ぶ/リモコンを各操作モードにする	TV VCR DVD TUNER TAPE CD MD お知らせ PHONO(プレーヤー)はリモコンでは選べません。
音量を調節する	− VOLUME +
DSP サウンドモードを選ぶ (➡ 20 ページ)	SOUND MODE
SFC モードを選ぶ (➡ 20 ページ)	SFC
テスト信号を出す (➡ 16 ページ)	TEST
スピーカーを選び、出力レベルを調整する (➡ 16、21、22 ページ)	LEVEL ➡ − +
サブウーハーの出力レベルを調節する (➡ 22 ページ)	SUBWOOFER
サラウンドスピーカーのディレイタイムを調整する (➡ 21 ページ)	DELAY ➡ − +
一時的に音を消す(ミューティング) (➡ 23 ページ)	MUTING

DVD プレーヤー、CD プレーヤーや MD デッキを操作する

DVD プレーヤー、CD プレーヤーや MD デッキに向けて

操作	ボタン	説明
本機の入力を“ DVD ”に切り換え、リモコンを DVD プレーヤー操作モードに切り換える	DVD	DVD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
本機の入力を“ CD ”に切り換え、リモコンを CD プレーヤー操作モードに切り換える	CD	CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
本機の入力を“ TAPE/MD ”に切り換え、リモコンを MD デッキ操作モードに切り換える	MD	MD デッキ操作の前に必ず行ってください。
DVD プレーヤー、CD プレーヤーや MD デッキの電源を入/切する	⏻	
トラックやチャプターを飛び越す	⏮/◀◀ ▶▶/⏭	
再生を始める	▶	
DVD プレーヤーのみ：**トップメニューを表示する**	TOP MENU	
DVD プレーヤーのみ：**メニューを表示する**	MENU	
DVD プレーヤーのみ：**画面表示（アイコン）を表示する**	DISPLAY	
DVD プレーヤーのみ：**前の画面に戻る**	RETURN	
DVD プレーヤーのみ：**項目を選ぶ** [TOP MENU]、[MENU]や[DISPLAY]を押した後に操作してください。	▲ ◀ ▶ ▼ **または** 1 2 3 4 5 6 ≥10 7 8 9 0	
DVD プレーヤーのみ：**選んだ項目を実行する**	ENTER	
トラックやチャプターを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 ≥10 7 8 9 0	例：1　1 例：10　≥10 ➡ 1 ➡ 0 例：100（MD のみ）　≥10 ➡ ≥10 ➡ 1 ➡ 0 ➡ 0
再生を停止する	■	

リモコンでの操作　（つづき）

ラジオを聞く

チューナーに向けて		
	本機の入力を“TUNER”に切り換え、リモコンをチューナー操作モードに切り換える	TUNER　チューナー操作の前に必ず行ってください。
	チューナーの電源を入/切する	⏻
	チャンネルを順に選ぶ	∨ CH ∧ お知らせ 本機のリモコンでバンド（FM/AM）を選ぶことはできません。
	チャンネルを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 ≥10 7 8 9 0 例：チャンネル 1 1 例：チャンネル 10 ≥10 ➡ 1 ➡ 0 お知らせ 本機のリモコンでバンド（FM/AM）を選ぶことはできません。

カセットテープを聞く

カセットデッキに向けて		
	本機の入力を“TAPE/MD”に切り換え、リモコンをカセットデッキ操作モードに切り換える	TAPE　カセットデッキ操作の前に必ず行ってください。
	カセットデッキの電源を入/切する	⏻
	再生を始める	►
	早送り/巻き戻しをする	⏮/◀◀ ▶▶/⏭ お知らせ TPS 機能を備えたカセットデッキの場合、テープの再生中にこれらのボタンを押すと、今聞いている曲の頭出しや次のトラックの頭出しをすることができます。
	再生を停止する	■

テレビ番組を見る

テレビに向けて

操作	ボタン	説明
本機の入力を“ TV ”に切り換え、リモコンを TV 操作モードに切り換える	TV	テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	⏻	
テレビの TV/VIDEO 入力切り換えを“ TV ”にする	TV/VIDEO	
チャンネルを選ぶ	∨ CH ∧	お知らせ 数字キーでチャンネルを選ぶことはできません。

ビデオを見る

ビデオデッキに向けて

操作	ボタン	説明
テレビの電源を入れる	TV ➡ ⏻	くわしくは上記“ テレビ番組を見る ”を参照してください。
テレビの TV/VIDEO 入力切り換えを“ VIDEO1 ”などにする	TV/VIDEO	テレビに向けて操作してください。
本機の入力を“ VCR ”に切り換え、リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	VCR	ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	⏻	
チャンネルを選ぶ	∨ CH ∧	お知らせ 数字キーでチャンネルを選ぶことはできません。
再生を始める	▶	
巻き戻し/早送りをする	⏮/◀◀ ▶▶/⏭	
再生を停止する	■	

Q ＆ A （よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）	参照ページ
マイクを接続したい。	本機には接続できません。	—
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音がでない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、デジタル入力を“ ANALOG ”にしてください。	下記
DVD プレーヤーでもスピーカー設定やレベルの調整ができるが、どちらですべきか。	本機とデジタル接続している場合は、本機で調整してください。 本機の DVD 6CH 入力と DVD プレーヤーの音声出力をアナログ接続している場合は DVD プレーヤーで行ないます。	7、12、13、16 7、21
DTS の音声がでない。 音声は出るが表示窓に DTS のフォーマット表示が点灯しない。	DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確かめてください。	—
LD プレーヤーのドルビーデジタル RF 出力端子と接続できるか。	本機はドルビーデジタル RF 信号には対応していません。接続の際には、市販の RF デモデュレーターが必要です。	—
BS デジタル放送の AAC 信号に対応しているか。	本機は対応していません。 BS デジタルチューナー側の設定で PCM 出力（2ch）にすれば音声を聞くことができます。	—
パッシブ（アンプを内蔵していない）のサブウーハーは接続できるか。	本機のサブウーハー端子に直接接続することはできません。パワーアンプを通して接続することになります。 また、サブウーハーによってはフロントスピーカー端子に接続するものもあります。くわしくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。	11
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、本機の上に物を置いたり、冷却ファンと壁などの間を近づけすぎて放熱を妨げることはしないでください。特に、通気孔はふさがないでください。	—
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。	—

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

お願い

DVD プレーヤーでカラオケを楽しむには

- DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しむ場合、デジタル入力ではマイクの音が出力されません。アナログ接続して、アナログ入力を選んでください。（➡ 7、20 ページ）
- DSP サウンドモードは STEREO モードもしくは、サラウンド効果を出したい場合には SFC モードに設定することをおすすめします。
- DVD プレーヤーにアッテネータースイッチがあるときは「入」にしてください。「切」にしていると、マイクの音がひずむことがあります。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処理をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認・処置してください	参照ページ
共通	**電源が入らない。**	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	9
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● スピーカー表示が消灯していませんか。消灯している場合は点灯してください。 ● 入力ソースを正しく選択してください。 ● テープモニターをオフにしてください。 ● ミューティングをオフにしてください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか、確認してください。 ● デジタル入力端子の設定と接続した機器を合わせてください。 ● PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。	20 20 23 23 6～11 14 19
	デジタル入力が選択できない。	● DSP DEFEAT の状態になっているかもしれません。くわしくは本ページ下記“ DSP DEFEAT について ”をご覧ください。	下記
	再生中に音が出なくなった。 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて信号を自動的に遮断します。 (“ OVERLOAD ”が表示されます。)	● スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 ● スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ➡ 本機の電源を切り、原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路が解除されます。)	―
	表示窓に“ F70 ”表示が点灯している。	● 電源を入れ直す、もしくは電源プラグをコンセントに差し直してください。 (それでも“ F70 表示が消えない場合は販売店にご相談ください。)	―
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	―
DSP サウンドモード	**センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。**	● スピーカー設定で“ NONE ”や“ NO ”に設定していませんか。正しい設定を行ってください。 ● DSP サウンドモードを確かめ、SURROUND モードあるいは SFC モードを選んでください。 ● スピーカー B が選ばれていませんか。	12 18～20 21
	DSP サウンドモードが選べない。	● スピーカー B をオフにして、スピーカー A をオンにしてください。 ● DVD 6CH 入力をオフにしてください。 ● DSP DEFEAT の状態になっているかもしれません。くわしくは本ページ下記“ DSP DEFEAT について ”をご覧ください。	20、21 21 下記
	DTS フォーマットのソースを STEREO や SURROUND で再生できない。	● DTS FIX モードにしてください。 ● DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確かめてください。	19 ―
	ドルビーデジタル、DTS のソースを再生しても音が出ない。	● DSP サウンドモードが SFC モードになっている場合、ドルビーデジタルや DTS のソースを再生しても音はでません。それぞれのフォーマットに合った DSP サウンドモードにしてください。	18～20

DSP DEFEAT について

本機の DSP 回路は通常オンになっています。
DSP DEFEAT とは DSP 回路がオフになっている状態です。
この状態では、DSP サウンドモードの選択、デジタル入力の選択、音質・音量バランスの調節、サブウーハーの出力レベルの調節などができません。
この場合は、[DIGITAL INPUT] を長押し (約 4 秒) し、DSP DEFEAT を解除して、DSP をオンの状態にしてください。

各部のなまえ

本体

VOLUME
（音声調節）つまみ
（➡ 20 ページ）
INPUT SELECTOR
（入力切換）つまみ
（➡ 12、20 ページ）
SFC MODE
（SFC モード選択）つまみ
（➡ 20 ページ）
SPEAKERS A, B
（スピーカー選択）
ボタン
（➡ 12、20 ページ）
POWER, ⏻/I（電源）
ボタン
（➡ 12、20 ページ）
DIGITAL INPUT
（デジタル入力選択）
ボタン/ランプ
（➡ 19、20 ページ）
表示窓
（➡ 33 ページ）
DSP SOUND MODE
（DSP サウンドモード選択）ボタン
（➡ 20 ページ）
PHONES（ヘッドホン）端子
（➡ 23 ページ）
TAPE MONITOR ボタン/
ランプ
（➡ 23、24 ページ）
BASS/TREBLE, BALANCE
（低音/高音、左右音量調節選択）
ボタン
（➡ 22 ページ）
HELP, RESET
ボタン
（➡ 25 ページ）
SUBWOOFER
ボタン
（➡ 22 ページ）
−, L、+, R（低音/高音、
左右音量調節）ボタン
（➡ 22 ページ）
DVD 6CH INPUT
（DVD 6CH 入力選択）
ボタン/ランプ
（➡ 21 ページ）

表示窓

リモコン

AMP POWER ⏻（本体電源）ボタン（➡ 26 ページ）

⏻（接続機器電源）ボタン（➡ 27～29 ページ）

数字ボタン（➡ 27、28 ページ）

テープ、ディスク操作ボタン（➡ 27～29 ページ）

SUBWOOFER ボタン（➡ 22、26 ページ）

SOUND MODE（DSP サウンドモード選択）ボタン（➡ 26 ページ）

TV/VIDEO（テレビ/ビデオ入力選択）ボタン（➡ 29 ページ）

－ VOLUME ＋（音量調節）ボタン（➡ 16、26 ページ）

入力ソース切り換えボタン（➡ 26 ページ）

DVD プレーヤー操作ボタン（➡ 27 ページ）

スピーカーレベル、ディレイタイム調整ボタン（➡ 16、21、26 ページ）

TEST（テスト信号）ボタン（➡ 16、26 ページ）

SFC（SFC モード選択）ボタン（➡ 26 ページ）

MUTING（消音）ボタン（➡ 23、26 ページ）

∨ CH ∧（チャンネル選局）ボタン（➡ 28、29 ページ）

保証とアフターサービス　よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、AV コントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

31 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● 保証期間中は
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

● 保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 修理料金のしくみ
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容			
品　名	AV コントロールアンプ	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SU-HE9	故障の状況	できるだけ具体的に

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　**修理ご相談窓口**

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

• お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

お取り扱い・お手入れなどのご相談

ナショナル／パナソニック　**お客様ご相談センター**

電話　フリーダイヤル　**0120-878-365**（パナは 365日）
FAX　フリーダイヤル　**0120-878-236**
365日／受付9時～20時

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays /Sundays / national holidays)

ナショナル／パナソニック
修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。
  呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北 海 道 地 区

地区	住所	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎ (011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎ (0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎ (0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎ (0138)48-6631

東 北 地 区

地区	住所	電話
青森	青森市大字八ッ役字矢作1-37	☎ (017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎ (018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎ (019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎ (022)387-1117
山形	山形市流通センター3丁目12-2	☎ (023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎ (0243)34-1301

首 都 圏 地 区

地区	住所	電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎ (028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎ (027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	☎ (029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	☎ (0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎ (048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎ (043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎ (03)5477-9780
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	☎ (055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎ (045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎ (025)286-7725

中 部 地 区

地区	住所	電話
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎ (076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎ (076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎ (0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎ (0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	☎ (054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎ (052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎ (0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎ (058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎ (0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎ (059)255-1380

近 畿 地 区

地区	住所	電話
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎ (077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	☎ (075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎ (06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	☎ (0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎ (073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎ (078)272-6645

中 国 地 区

地区	住所	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎ (0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎ (0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	☎ (0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎ (0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎ (0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎ (086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎ (082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎ (0839)86-4050

四 国 地 区

地区	住所	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎ (087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎ (088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎ (088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎ (089)971-2144

九 州 地 区

地区	住所	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎ (092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	☎ (0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎ (095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎ (097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	☎ (0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎ (096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎ (0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎ (099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	☎ (0997)53-5101

沖 縄 地 区

地区	住所	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎ (098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0101

主な仕様

■ **アンプ部**

定格出力（DVD 6CH 時）
- **フロント** 60 W ＋ 60 W（1 kHz 6 Ω 0.9 %）
- **センター** 60 W（1 kHz 6 Ω 0.9 %）
- **サラウンド** 60 W ＋ 60 W（1 kHz 6 Ω 0.9 %）

実用最大定格（DVD 6CH 時）
- **フロント** 75 W ＋ 75 W（6 Ω, EIAJ）
- **センター** 75 W（6 Ω, EIAJ）
- **サラウンド** 75 W ＋ 75 W（6 Ω, EIAJ）

定格出力（ステレオ時）
65 W ＋ 65 W（40 Hz ～20 kHz 6 Ω 0.9 %）

実用最大定格（ステレオ時）
100 W ＋ 100 W（6 Ω, EIAJ）

定格ひずみ率（40 Hz～20 kHz 定格出力）
0.9 %（6 Ω）

全高調波ひずみ率（1 kHz 定格出力） 0.05 %（6 Ω）

ダンピングファクター 30（6 Ω）

負荷インピーダンス
- **フロント**
  - **A または B** 4～16 Ω
  - **A と B** 8～16 Ω
- **センター** 6～16 Ω
- **サラウンド** 6～16 Ω

周波数特性
- **PHONO** RIAA カーブ ±1 dB
- **TUNER, CD, TAPE/MD, DVD, TV, VCR**
  10 Hz～70 kHz, ±3 dB

入力感度/入力インピーダンス
- **PHONO** 3 mV/47 kΩ
- **TUNER, CD, TAPE/MD, DVD, TV, VCR**
  200 mV/22 kΩ

信号対雑音比（S/N 比）
- **PHONO** 70 dB
- **TUNER, CD, TAPE/MD, DVD, TV, VCR** 75 dB
- **DVD 6CH**
  100 dB（IHF A, 定格出力時, S＝2 V）, 75 dB

トーンコントロール特性
- **BASS** 50 Hz, +10 ～ –10 dB
- **TREBLE** 20 kHz, +10 ～ –10 dB

定格出力電圧
- **TAPE/MD REC OUT** 200 mV
- **VCR OUT** 200 mV

デジタル入力
- **（光）** 2
- **（同軸）** 1

■ **映像部**

出力電圧（1 V 入力時） 1 ±0.1 Vp-p

最大入力電圧 1.5 Vp-p

入出力インピーダンス（アンバランス） 75 Ω

■ **スピーカー出力（ステレオ時）**

DIN 1 kHz（T. H. D. 1 %） 85 W ＋ 85 W

■ **総合**

電源 AC 100 V, 50/60 Hz

消費電力 280 W

寸法（幅×高さ×奥行き） 430 ×158 × 370 mm

質量 約 10.5 kg

POWER ボタン STANDBY ⏻ 時の消費電力　約 0.8 W

注）
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる 10 次高調波までの総和です。

高調波ガイドライン適合品

愛情点検　長年ご使用の AV コントロールアンプの点検を!

こんな症状はありませんか
- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 音が出ないことがある
- 正常に動作しないことがある
- 商品に破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

▶ **このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ （おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎（　　）　－	品番	SU-HE9
お客様ご相談窓口	☎（　　）　－	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　デジタル AV ネットワーク事業部

〒 571-8505 大阪府門真市松生町 1 番 4 号

RQT5925-S

H0201RF0